

資料

明治初年の大審院入会判決関係資料

——山梨県都留郡大石村と長浜村との間の入会紛争事件——

村田 彰

明治八（一八七五）年に大審院が設置され、裁判制度は旧幕府時代の一審制から三審制となる。そうして、その直後の明治一〇（一八七七）年九月一九日に入会判決（『山論一件』）が出された。本判決は、前年の明治九（一八七六）年七月九日に上告されたものであり、大審院の入会判決例としては七例目のように思われる。

「原告」（上告人）は「山梨県下甲斐国第三十四区都留郡大石村総代同村戸長堀内宗作、同村平民渡辺与市」、
「被告」（被上告人）は「山梨県下甲斐国第三十四区都留郡長浜村平民旧戸長被告総代三浦裕暉代兼三浦源一、同村平民戸長被告総代三浦兵左衛門代三浦広明」、である。事案は、本件係争地について、長浜村が長浜村と大石村とで薪秣を刈り取る入会地であると大石村に主張して明治八年十二月十八日に訴訟を提起したのに対して、大石村が大石村の村持地で単独の入会地であると主張した、というものである。初審（山梨裁判所・明治九年二月一九日）および控訴審（東京上等待裁判所・明治九年五月一九日）はともに長浜村の主張を認めたが、大審院は、長浜村と大石村とが共に本件土地に入り会うことを認めたものの、入会の内容について、「長浜村

ヨリモ薪山年貢ヲ上納シ来ル上ハ長浜村ハ大石村ト共ニ薪山ニ入会ヒ薪ヲ伐取ル」ことのみを認めた。大石村と長浜村とは、ともに旧幕府時代には天領に属していて独立した村で隣接関係にあった。現在、両村はともに山梨県南都留郡富士河口湖町の一部となっている。

以下は、本件訴訟資料の原本を一部複写および一部筆写したものの復刻である。原本自体は、昭和三五（一九六〇）年頃まで河口湖町大石の資料庫にあったようであるが、今日ではその所在が明らかではない。原文を筆写したものについても欠けている部分があるために、完全なものとはいえない。しかし、これだけの資料が残っていることはきわめて珍しく、大審院創設時における入会訴訟のあり方を窺い知ることのできる貴重なものであるように思われる。そこで、その全文をここに復刻することにした次第である。そうして、最後に、大審院の「山論上告ノ判文」（『大審院民事判決録自明治十年七月至同十年十二月』一六一丁〔司法省蔵版、明治十一年一二月印行〕）を載せている。

なお、前述のとおり、原本を筆写したものが一部あり、したがって、原本との完全な照合ができないことから、誤写などがあるかも知れないことをおそれるが、資料は編綴されていたままの順序に従ってこれを掲出し、旧漢字は原則として新漢字に改め、判読困難な文字は「□」としている。また、係争地を示す絵図面があったことは本資料から確認することができるが、複写した絵図面が見当たらないことから、これをすべて複写したかどうかは判然としない。

〔表紙〕

明治九年四月二十四日

入会山不服之控訴状

山梨県管下甲斐国

都留郡第五区大石村

戸長

原告総代人 堀内 宗作

平民

同 渡辺 与市

〔本文〕

山梨県管下甲斐国

都留郡第五区大石村

戸長

原告総代人 堀内 宗作

入会山不服之控訴

平民
同 渡辺 与市

同 県管下同国同郡

同 区長浜村

戸長

被告総代人 三浦兵左衛門

平民

同 三浦 源一

平民

同 三浦 裕暉

御掛り

七等判事後藤広貞殿

同

三級判事今村信行殿

本年一月十日答書差上

同 十二日御呼出ノミ

同 十三日原被証拠物御調

同 十四日原被共帰村

同 二十三日名前書ノミ
同 二十四日被告証拠物御調
同 二十五日原被ニテ日延
二月二日着届ケノミ
同 三日名前書ノミ
同 四日口書下書
同 五日口書下書
同 七日天明度村差出帳写差上
同 八日原被共帰村被仰候
同 十三日着届ケノミ
同 十四日口書御読聞調印
同 十五日名前書ノミ
同 十七日右同断
同 十八日原被訴訟入費御見留メ
同 十九日御裁許御読聞御下ケ渡相成
御裁許状写シ左ノ如シ

申
渡

甲斐国都留郡第五区

明治九年
二月十九日

山梨裁判所印

長浜村原告代言人

同村戸長

三浦兵左衛門

同断

同村平民

三浦 源一

同断

同村平民

三浦 裕暉

同国同郡同区

大石村戸長

堀内 宗作

同断

同村平民

〔注、以下欠〕

右原告総代人戸長堀内宗作外一人奉申上候被告同県管下同国同郡同区長浜村戸長三浦兵左衛門外二人ヨリ山梨裁判所へ訴出候ニ付本年一月十日大石村御呼出シニ付答書差上前書ノ通り御呼出シ二月十九日御裁決相成候処不服ノ廉々有之候ニ付山梨裁判所へ差上候訴答ノ手続書相添左ニ奉控訴候

第一条

大石村薪貢納大豆二斗五升ト記載有之年々長浜村ヨリ納来リ且明治二巳年以前モ同様納来ルニ相違無之上ハ原告長浜村ヨリ立入伐刈スルハ当然ナリト有之

此儀大石村ニテハ長浜村ヨリ薪年貢大豆二斗五升納メ来ル坏ト申立候得共真実少モ不存且大石村分内ノ薪年貢ニ候得ハ長浜村ヨリ大石村へ受取大石村ヨリ長濱村薪年貢ト記シ上納可致哉大石村加印ニテ上納致ス哉且大石村ノ山税引方有之哉ニテ至当ナリ然ルヲ長浜村ニテ当村山内へ上納ト有之ハ何等ノ所謂ナルヤ現由御取調モ不被成下前条ノ御裁決ニテハ何分難服候

第二条

文政度済口証文中総山立木郷持トアルハ村持ト云フ一般ノ旧習ナル旨申立ルト雖トモ郷ト村トハ自カラ殊別ノモノニシテ郷持トアルヲ以テ大石村一村持トハ看做シカタシト有之

此儀別冊ニ記載候通大石村総百姓ヨリ同村与一ノ助外六人へ相係ル争論ニシテ隣村近里ニテ抱リ候争論ニ無之ハ其節訴答ノ云々ニテ判然相分リ候依テハ村ヲ郷ト唱へ候儀鄙俚ノ旧習殊ニ昔年天正度ノ領主猶其後ノ領主秋元候ヨリ度々ノ被下置候旧書ニモ大石村一村ヲ郷ト唱へ候儀モ有之且文政度争論ハ長浜村ハ勿論隣村々ニ抱済口証文ニ候故全ク村ト郷トノ文字誤記ハ旧慣願程ノ儀ト種々弁明旧書類モ差上候得共少モ御調不被成下剩右争論ノ起之旨趣情実御汲分ケナク無学ノ愚民村モ郷ト誤書致シ候ノミヲ以前条ノ御裁決難服儀ニ御座候最モ右証拠モノハ別紙ニ有之候

第三条

天明度大石村差出明納帳写シ文中ニ他村ヨリ入会一切無之トアルモ果シテ其正本ヲ旧代官所へ差出シタルヤ否ヤハ今はモ知ルニ由ナシト有之

比儀山梨県庁ニテ搜索スルト雖トモ不見当旨御回答有之ニ付前条ノ御裁決相成候得共右村差出シ明細帳ハ天明度其外数通旧代官所替リノ度々書上既ニ天保九戌年西村貞太郎殿御代官ノ節迄モ実地書上置候ニ相違無之ニ付右明細帳正ニ可有之儀ニ然ルヲ嚴密御取調モ不被成搜索及フト雖トモ不見当旨ヲ以テノ御裁決難服儀ニ御座候

第四条

尚宝曆度小作証文安永度ノ証文等ハ印形引合スベキ書類無之真疑ヲ訂ムルヲ得スト有之

此儀小作証訛証等印形可引合品ハ旧御代官所ノ節ハ村々ヨリ年々夫錢取立帳正副ニ帳捻人民連印ヲ以差上一帳ハ旧御代官所へ留置一帳ハ村方へ御下渡シニ相成候御趣意ニ有之候間長浜村夫錢取立帳へ御引合被下候口亦ハ旧宗門帳へ引合セ候得ハ銘々耽ト合印可有之候間御取調奉願候

第五条

素ヨリ薪山等専有亦ハ共有ノ權ハ独リ貢納ヲ勤ムルト共ニ貢納ヲ勤ムルトニ由テ区分スルモノニ付原告長浜村ニテ積年薪山税納來ル上ハ被告大石村ニ於テ入会ヲ故障スル条理ハ無之ト有之

此儀大石村ニテハ寛文度御檢地以來山税上納仕來リ一村限り進退所持罷在候得ハ専有ノ權利アルハ当然ナリ且長浜村ヨリ入会ト申立候場所ニ天神山神各祠有之大石村水帳並ニ明細帳ニ有之ノミナラス山内ニ厄難等數度有之節モ長浜村ニテハ更ニ關係無之共ニ貢納ノ權ナレハ諸厄難等ノ殘務モ共ニ担負シテ至当ナリ無斷ニ他村山内へ上納可被致条理ハ無之然ル処長浜村皆済目錄中ニ大豆二斗五升薪山年貢ト有之肩ニ大石村名儀記載有之ハ何等ノ以謂ナルヤ確タル証トハ看做シカタシ実地大石村山内税トナラハ地元大石村承諾ハ勿論往古ヨリ納來リ候

年貢二候ハ、現在ノ長浜村御水帳ニ記載有之筈如何トナレハ雜稅トハ異ナリ年貢ニ有之ハ判然云々記載有之儀ハ当然ナリ然ルヲ当分之皆済同様訝カシキ証拠ノミヲ以原由ノ水帳御取調モ不被成下前顯ノ御汲分ケモ無之御裁決何分難服儀ニ御座候

第六条

實際上ニ於テモ又入会タル儀ナキヤ否ヤ申争ノミニシテ被告ヨリ申立ル件々ハ總テ採用シ難ト有之此儀元來長浜村三浦三右衛門ト申者寛文度御裁檢地以來目今明治七年三月頃迄凡二百年余同村永代名主役相勤居リ候此三右衛門儀ハ先般山梨裁判所ヘ訴訟ノ節モ連印不仕論外ニ相成候儀ハ御推考被成下度如何トナレハ從前入会モ不仕唯当今皆済目録ニ大石村ノ名儀有之ノミヲ以從來入会來ル抔ト申立候ハ当今ノ村吏一村ヲ煽動致シ不条理ノ申立トハ兼テ弁ヘ居リ依之右三右衛門御呼出御取調被成下候得ハ從來入会タル儀ナキヤ否ヤハ判然相分リ候儀ニ奉存候且亦実地御檢査被成下候得ハ是亦明白ニ相分リ可申儀ト奉存候間御取調奉願候

第七条

一昨七年五月中長浜村ヨリ当村山内薪年貢年々納來ル存意ヲ以山梨県庁ヘ出願ノ節入会ノ名儀記載ノ指令有之且亦山梨裁判所ヨリ同県庁ヘ御照介ニ被及候処長浜村ヨリ積年上納シタルニ相違無之旨御回答有之ハ何等ノ所謂ヲ以他村区画内ノ山内ヘ上納相成リ候哉発端ノ次第柄仰御渡シモ無之長浜村旧名主三浦三右衛門居宅焼失ノ節証書類焼ノ実否御取調モ無之是マテ一円不存居候村方ノ地券帳簿等ヘ長浜村入会ノ名儀記載致シカタキハ当然ノ儀ニ奉存候間何卒御手数之儀ハ恐入候ヘトモ貢租ノ原由御取調ヘ被成下度左ニ無之テハ村内ノ者トモ難渋ハ勿論何分難服候

前書条々上申候通り不服ノ廉々有之右御裁決ニテハ大石村一村難立行往々衰微ノ外無之然ル処今般始テ入会ノ

承諾等難致無拠奉控訴候間從前之通り一村限り進退仕難決無之様御裁判奉願候以上

明治九年

四月二十四日

右

堀内

宗作

印

同

渡辺

与市

印

前書ノ儀原告私シトモ連名ニテ御願申上ベク筈スニ御座候処農業多忙ニテ罷出カタキニ付戸長堀内宗作外一人ヲ総代ニ相頼ミ然ルニ上ハ右同人トモヨリ申上候事柄並ニ御受ケ仕候事柄トモ後日ニ至リ私シトモヨリ異議申上間數候為後証與印仕候以上

甲斐国都留郡第五区

大石村

伍長

梶原

崇右衛門

印

同

渡辺

太久

印

同

堀内

吉右衛門

印

同

堀内

与後右衛門

印

同	堀内	重郎右衛門	⑩
平民	堀内	友次郎	⑩
同	堀内	源右衛門	⑩
同	堀内	鉄也	⑩
同	堀内	清兵衛	⑩
同	堀内	久右衛門	⑩
同	堀内	政市	⑩
同	堀内	忠次右衛門	⑩
同	渡辺	左平	⑩
同			

明治九年四月廿四日

東京上等御裁判所
西四等判事殿

石原

そで

印

同

貴家

藤三郎

印

同

加藤

守景

印

副戸長

梶原

長作

印

同断

貴家

金三郎

印

〔注、絵図面の一部がある〕

〔表紙〕

証拠物写

本按
仮処分
共通

〔本文〕

証拠物写

甲、第一号証

申渡

明、治、九、年、五、月、十、五、日、
閱、

東、京、上、等、裁、判、所、

伴、六、等、判、事、
印

柴、山、七、等、判、事、
印

桑、原、七、等、判、事、
印

甲斐国都留郡第五区

長浜村原告代言人

同村戸長

三浦 平左衛門

同断

同村平民

三浦 源一

同断

同村平民

三浦 裕

同国同郡同区

大石村被告代言人

同村戸長

堀内 宗作

同断

同村平民

堀内 利兵衛

同断

〔以下、二三行不明〕

同断

武川 伴吉郎

其方共入会山差妨ノ訴吟味ヲ遂ル処左ノ通

第一条

原告申立ル所ハ従前被告大石村山内へ入会薪秣等伐刈致シ来リ明治二年十二月朔日長浜村旧名主三浦三右エ門
居宅火災ニ罹リ旧書類悉ク灰燼ト相成リ右以前ノ儀ハ確証無之明治二巳年ヨリ以後同村皆済目録ニ大石村薪山
貢納大豆二斗五升ト記載有之通り年々県庁へ相納メ入会来ル処方今地券発行ノ際大石村ノミ地券申受ケ以後ハ

入会ハセサル旨主張シ故障致スニ付明治七年五月中山梨県庁へ嘆願ニ及ヒシ処薪秣丈ケ入会之名義記載ノ地券状下渡シニ可相成指令有之依テ区長堀内雄右エ門ニ依頼シ屢掛合ヲ遂ル処大石村ニ於テ承諾セザルニ付終ニ出訴ニ及ヒタリ然ルニ被告村ヨリハ文政度済口証文ノ写其他天明度大石村差出明細帳ノ写宝暦度小作証文安永度ノ証文等ヲ以テ大石村山内へ他村入会ハサル確証ノ趣答出ルト雖モ文政度ノ済口証文中ニ総山立木秣場共郷持ト有之ヲ以テ大石村一村持トハ看做シ難ク天明度大石村差出明細帳写シ文中ニ当村山内へ他村ヨリ入会一切無之ト記載有之ハ何等ノ所以ナル哉長浜村ニ於テハ之ヲ知ラズ宝暦度ノ小作証文モ長浜村小左衛門外一人ト大石村甚兵衛外一人トノ間ニ取結タル契約ニシテ是ヲ以テ普ク闔村ニ論及スルヲ得サルノミナラス其頃ノ印形引合スヘキ書類無之故証拠トハナシ難ク安永度証文ニ至テモ同断ノ儀ニ付山梨県庁ノ指令ニ基キ地券取調帳簿ニ長浜村入会ノ名義ヲ記載シ以来モ異論ナク薪秣等伐刈致シ度旨申立タリ

第二条

被告申立ル所ハ従前大石村一村持切ノ山ニ有之処明治七年五月中原告長浜村ノ者共大石村山内へ入会ノ旨山梨県庁へ出願致シ薪秣丈ハ入会タルノ地券状下渡シニ可相成指令アリシコトハ今般吟味ノ上始メテ之ヲ知レリ而シテ長浜村ニ於テ大石村薪山貢納大豆二斗五升宛年々納来ル趣ヲ以テ明治二巳年ヨリ同六酉年マテノ同村皆済目録ヲ証拠トシ従前ヨリ入会タル旨申立ルト雖トモ何等ノ由緒有之何年度ヨリ納メタル哉分明ナラス明治二巳年十二月中長浜村旧名主三浦三右衛門居宅焼失シタルヲ口実ト為シ右証書不殘灰儘セシ杯ト唱フルハ最モ訝シキ申分ニ付明治二巳年以来皆済目録ノミニテハ信用シカタク当村所持ノ文政度済口証文中ニ総山立木秣場共郷持ト記載有之古来村持ヲ郷持ト唱フル旧習ニシテ郷持トアルハ即チ大石村一村持ト云フ趣意ナリ殊ニ原告長浜村三浦民部外三人取扱人ニ相立調印モ之レアリ又天明度大石村差出明細帳写ノ文中ニ当村山内へ他村ヨリ入会一切無之トアルハ即チ当村山内へ他村ヨリ入会ハサル確証ニ有之且又宝暦度長浜村小左衛門外一人ヨリ大石村

甚兵衛外一人へ宛差入レタル小作証文並安永度二長浜村彦右エ門外四人ヨリ大石村渡辺將監外一人へ宛差入レタル証文中ニ大石村山内ニテ夜荷イテ木松木枝葉等一切持運ヒ申間敷ト有之若シ果シテ長浜村入会山ナラバ同村ノ者共右様ノ儀書載スベキ謂レ無之實際ニ於テモ亦入会タル儀曾テ無之ニ付仮令大石村薪山税トシテ年々納来ルト雖トモ当村ニ於テハ地券取調帳簿へ長浜村入会ノ名義ヲ記載シ難キハ勿論實際薪秣等伐刈等為致カタキ旨申立タリ

第三条

明治二巳年以前モ長浜村ニ於テ大石村薪山税上納致シ来リシ哉又天明度ノ大石村明細帳ノ儀モ旧代官所へ差出シ有之哉ノ両条ヲ山梨県庁へ照会ニ及フ処長浜村ニ於テ大石村薪山税ノ儀ハ明治二巳年以前モ同様上納シタルニ相違無之大石村ノ明細帳ニ至テハ搜索ニ及フト雖モ終ニ見当ラサル旨回答アリ依テ裁決スル左ノ如シ

第四条

原告長浜村ニ於テ明治二巳年以來皆済目録ニ大石村薪山貢納大豆二斗五升ト記載有之年々長浜村ヨリ納来リ且明治二巳年以前モ同様納来ルニ相違無之上ハ被告大石村山内へ原告長浜村ヨリ立入り伐刈スルハ当然ナリ然ルニ被告大石村ニ於テ文政度ノ済口証文外三通ノ証書中ニ他ノ村入会無之趣記載有之加之實際入会タル儀無之旨申立文政度ノ済口証文中ニ総山立木郷持トアルハ村持ト云フ一般ノ旧習ナル旨申立ルト雖トモ郷ト村トハ自カラ殊別ノモノニシテ之ヲ同視スヘカラス仍テ郷持トアルヲ以テ大石村一村持ニ限ルトハ看做シ難シ又天明度ノ大石村差出明細写ノ文中ニ他村ヨリ入会一切無之トアルモ果シテ其正本ヲ旧代官所へ差出シタルヤ否ヤハ今之ヲ知ルニ由ナシ尚宝暦度ノ小作証文安永度ノ小作証文等ハ印形引合ス可キ書類無之ニ付真偽ヲ訂ムルヲ得ス實際上ニ於テモ亦入会タル儀ナキ哉否ハ申争ノミニテ被告ヨリ申立ル件々ハ總テ採用シ難ク仮令ヒ大石村区域内ニ孕ミタル山林ト雖トモ田畑ノ如ク検地帳ニ一筆限記載有之一村ノ者共銘々へ割付タルモノトハ異ナリ素ヨリ

薪秣山等専有又ハ共有ノ權ハ独リ貢納ヲ勤ムルト共ニ貢納ヲ勤ムルトニ由テ区分スルモノニ付原告長浜村ニテ
モ積年薪山税納来ル上ハ被告大石村ニ於テ入会ヲ故障スルノ条理ハ無之事
但シ地券取調帳簿等ハ山梨県庁ノ指図ニ従フヘキ事

原告被告

代書人

右之通申渡シタル間其旨可相心得事

明治九年二月十九日

山梨裁判所



甲第二号証

山論上告ノ判文

山梨県下甲斐国第三十四区

都留郡大石村総代同村戸長

原告 堀内 宗作

同村平民

原告 渡辺 与市

山梨県下甲斐国第三十四区

都留郡長浜村平民旧戸長

(表紙)

天明八年
甲斐国都留郡大石村高反別村指出帳
申五月

寛文九酉年秋元但馬守様
御檢地御水帳三冊

高百九十九石六斗三升

此反別三十三町四反一畝十一歩

此訳

上畑一町七反八畝三歩

分米十七石八斗一升

中畑四町九反四畝十三歩

被告総代

被告

三浦 裕暉代兼
三浦 源一

大石村

石盛一石代

石盛八斗五升代

分米四十二石二斗七合

下畑十町一反六畝二十七歩

分米六十九石九升九合

下畑十二町一反九畝十三歩

分米四十二石六斗八升

見付畑一町八反三畝十三歩

分米五石五斗

桑四十六束

分米五斗九升八合

屋敷二町四反九畝五歩

分米二十四石九斗二升八合

外

一山畑四町九反三畝二十四歩

此取稗六斗四升

此訳

中山畑九反四畝十歩

此稗一斗八升八合

下山畑一町二反五畝二歩

此稗一斗八升七合

石盛六斗五升代

同三斗五升代

同三斗代

一束 一升二合代

石盛一石代

石盛稗二斗代

同一升五合代

下山畑二町二反八畝十五歩

石盛稗一升代

此稗二斗二升九合

見付山畑四反六畝二十歩

同五合代

此稗二升三合

桑七束

一束稗五合代

此稗三升五合

一永九百二十三文

薪二百四十束代

一永四十文

入松四束代

一永七十六文

糠十九俵代

一永百三十文

青草三十九駄代

一永百十九文

藁十九駄代

一永五十八文五分

洪柿三斗五升代

一永一貫九百九十六文

文金

一御年貢米金納年々御張紙御座候ヲ以金納仕候御口米ハ三升宛是ハ田米御座候畑米御座候田米御座候二三割安ニ而年々御座候高下御座候

一御林一ヶ所

是ハ前々より当村御普請所入用ニ立置他村々材木一切出シ不申村中ニ而山見一人附置山見方

江家別ニ秋一升春一升ツ、給分指出大切ニ相守置申候依之村方急難之節ハ村方へ被下置候

一御除地境内一反十歩

此家宗 海蔵寺

	庫裏	梁五間	
	桁八間		
方丈	梁六間		
桁七間半			
一御除地山畑八反歩			同寺
是レハ天神宮之宮有			
一同一畝分			阿弥陀堂一軒
一屋敷反別二反一畝指六歩			与市之助
			甚右エ門
是ハ前々御除地ニ而高外ニ御記被下置候処享保十年川原清兵エ様御代官所之節奉願上御年貢地			
ニ相成申候			
一浅間宮社地之記			大石村
御除地者地境内一町六反			神主 撰津
浅間宮			
	拝殿	梁三間	
	桁六間		
明キ五尺五寸			

鳥居 明二間
高一丈五尺

神主 居屋敷

右之内反別三畝十步

外

末社 十社

神主 摂津控

御除

一 鵜嶋弁天一社 宮明四尺五寸

同人

拝殿 梁二間
桁三間

此社地長二町程横一町半程

一 御除反別五反歩

神主 摂津

日月宮一社明五尺 拝殿 梁二間半
桁三間

鳥居明五尺高一丈三尺

右社地内明神宮

同人

一 除地三畝九歩

水木山神

同人

御除地一畝十二歩

羽根子山神

同人

一 同二町十二歩	下川原山神	同人
一 同一畝二十六歩	下之峯山神	同人
一 同一畝十歩	中野山神	同人
一 同三畝二十歩	窪井天神	同人
一 同二畝十歩	薬玉権現	同人
一 同二畝歩	大石坂天神	同人
一 御見捨除地二畝歩	十二嶽役所者	同人
一 同二畝五歩	大石権現	同人
一 同一畝歩	子神明神	同人
御除地		
一 下山畑三反六畝十歩	与一之助 甚右エ門	
一 当村皆畑場大麦小麦粟稗大豆小豆蕎麦蓬大根並麻たばこ等少々ツ、作申候		
一 畑肥ニハ下肥むま屋肥ニ而作付仕下肥ハ他村ヨリ買入凡道法三里五里他村ヨリ買入諸作物仕付申候		
一 薪秣萱山入用之品者当村山ニ而取申候		
一 当村山内江他村ヨリ入会一切無御座候		
一 当村用水村上山沢より流出申候水用水ニ付候		

一 満水之節所々山沢より大水押出石砂押込用水路水元ヨリ大分出水仕水元たなの沢と申所山嶺馬場川江押流シ村中一鉢ニ石砂押込大砂罷成候ニ付馬場川大湊川両川御普請所ニ御座候右ニ付御先代秋元但馬守様御見分被仰付日月宮前用水路さいかちの木迄凡百八十二間西川原道ヨリ橋迄百四十六間川東よりさいかちの木橋まで百二十六間右三口合四百五十間石積御普請所右橋より川尻迄二百七十二間掘割御普請所但巾五間深サ五尺ニ堀立御入用金三十五両二分永二十四文被下置御料所以来其後大破少破共御入用被下置御普請所ニ御座候

一 満水之節湖水相増畑方湖水入ニ相成奉願上候而高三十石又ハ五十石余も湖水入ニ相成前ヨリ湖水入之場所伊奈半左エ門様御預リ所之節御改之上湖水入ニ被成下高十七石三斗九合湖水成永引ニ被成下其後数度湖水相増候節者奉願上湖水成被仰付候水引候得者起返し申候不定地之場所ニ御座候

一 当村より国境北之方

甲州八代郡芦川村境大坂峠天神迄道法一里十町御座候当村分

一 当村より東境馬乗石迄道法十七町川口村境ニ御座候

一 当村より西境字寺崎之札辻道法二十六町長浜村境ニ御座候

一 当村市場無御座米穀等甲州領並伊豆駿河ヨリ買入申候小買物者当郡谷村吉田川口村ニ而調申候煎茶之儀者駿州富士郡ヨリ調申候

一 当村より所々江道法

江戸日本橋より道法三十二里余谷村へ罷出小仏通往来仕候

谷村御役所様迄道法六里余

相州小田原迄道法十七里余

豆州三嶋迄道法十五里余

駿州沼津迄道法十六里余

富士郡上井出迄道法七里余

甲州府中札辻迄道法九里余

一 当村之者共往古より年々富士山江登ル崎辺ニ罷在手洗水壳弥陀釈迦地藏之散銭取来申候

一 前々より富士大宮下宮司役ハ

富士山江登之節大石村江引出仕

宿 山名主 弥市

一 猪鹿威鉄砲二挺

是ハ畑江猪鹿多出作物荒候ニ付年々御拝借奉願上猪鹿威シ鉄砲預リ申候

一 獵師鉄砲

一挺 長三尺二寸
玉目三匁

持主 甚左エ門

一挺 長三尺
玉目三匁

与一之助

一挺 長三尺一寸
玉目三匁

友之進

一 当村百姓作間二男ハ富士山へ罷越成沢太嵐船津浅川木立長濱大石八ヶ村入会馬荷鞍或保太木取候而儀ニ仕鞍打所々へ売出申候

一 女子稼飼蚕稼麻布木綿絹紬少々織出申候絹紬御役永御役所様へ直納仕候

一 野錢山手何ニ而も外役一切無御座候

一 名主給金三步ツ、秋元但馬守様御領分之節御地頭様より被下置御科所ニ罷成総百姓方分高掛リニ給与取之申候

一 名主組頭百姓代小百姓御用ニ付谷村御役所へ罷出候節者雜用総百姓其時之入用程割分申候

一 定使一人ニ而相勤給与村中ニ而夏麦一升秋粟一升家別ニ出申候

一 百姓出入有之節者名主組頭五人組共谷村並江戸表江罷越雜用其外入用出入有之候ハ、雜用諸役双方割付差出候筈ニ御座候

一 蚕之儀当村宜年不宜年平均凡金六七十両程も可仕候至而宜年ハ村中ニ而金百両位も可仕候

一 百姓家作之儀居村□□無御座候ニ付村中入会薪山或ハ所持仕候手前林ニ而材木取申候不足之分ハ御地頭様江奉申上候御林之木申請家作仕候

一枚 切支丹

一 村御高札三枚内一枚 火付御吟味

一枚 明和七寅新御高札

右者切支丹札ハ古来ヨリ建申候火事御吟味札ハ正徳元年建申候入用者村中掛リニ御座候

一 当村男女出替リ極月相極メ申候男女共ニ召抱候

一 当村御蔵屋敷御座候除地秋元但馬守様御領知之節御蔵建候得共当時荒地ニ御座候

一百姓持林二十ヶ所御座候雜木立是ハ先年秋元但馬守様御檢地之節御水帳御書載被下候得共御年貢御免被遊候此反別二反四畝二十八歩御座候

男 二百七十一人

一家数合百四十四軒人数五百四十六人 女 二百六十九人

僧 五人

神主 一人

外寺一ヶ寺

馬 六十足

牛 無御座候

右者此度村差出帳差上可申旨被仰付候ニ付先年差上候通之ヶ条不殘相認心得違之無之様仕立帳面差上申候名主組頭総百姓立会相改書面之通相置無御座候 以上

甲州郡内領大石村

天明八年

申五月

名主 与市之助

組頭 治兵ヱ 印

組頭 孫四郎 印

百姓代 半兵ヱ 印

入会秣薪山地券受ノ義ニ付御伺

都留郡第五区

長浜村

正副戸長並

伍長共

右奉申上候当村之義ハ従前一村ノ薪秣山少ク昔年より隣村大石村分内ニ入会秣薪等無差支取来リ山税ノ義ハ当村御割付面記載之通り年々大豆二斗五升宛公然ト相納仕来リ候処地券御発行ニ付右入会山券状ノ義ハ両村名面ニ而受置二ヶ村隔年所持仕度其旨大石村へ及掛合候へ共埒明不申依而区長へモ申請置候へ共今以決定仕兼候間右之趣キ奉伺候券状ノ義ハ何卒兩名ニ而受置申度此段奉伺候 以上

右村

伍長総代

梶原 源三郎 印

三浦 伝兵エ 印

副戸長

三浦兵左エ門 印

戸長

宮下 嘉兵エ 印

山梨県権令 藤村紫朗殿

〔以下、四行朱書〕

印書面願之趣キ秣苅採之為メ入会候迄ニ而地所ハ大石村区画内之儀ニ付入会村右記載之上地元村方へ券状可申
受儀ト可相心得事

明治七年

五月十三日 御印

イ、六、千、七、百、七、十、一、号

記

一用紙八十六枚

右認料金八円六十銭

一同十五枚 天明度明細帳写

右認料金一円五十銭

一同五枚 日延書之

右認料金五十銭

一月十日 被告代書へ日当

此金二円

此詎 堀内宗作堀内利兵エ金廿五銭増一回ニ付金七十五銭宛武川伴吉郎ノ分金五十銭宛
一月十二日 右同断

一月十三日	此金二円	右同断
一月十四日	此金二円	右同断
一月廿三日	此金二円	右同断
一月三十日	此金二円	武川伴吉郎分
二月四日	此金五十銭	三人ノ日当
二月五日	此金二円	右同断
二月七日	此金二円	右同断
二月十二日	此金二円	右同断
二月十四日	此金二円	右同断

二月十七日 右同断

此金二円

一金三円六十銭

堀内宗作

堀内利兵エ

往返旅費但シ九里

総計

金三十六円七十銭

右者同郡第五区長浜村より同区大石村へ相掛訴訟入費双方立会取調候処相違無御座候以上

都留郡第五区

大石村

被告代書人

堀内 宗作

〃

堀内利兵エ

山梨郡第一区

春日町

〃

武川伴吉郎

都留郡第五区

長浜村

被告代書人

三浦兵左門

〃

三浦 一

〃

三浦 裕暉

印

印

印

印

印

印

山梨裁判所

七等判事 後藤広貞殿

前書之通相違無之候事

明治九年二月十七日

山梨裁判所

㊦

代書人

柳町

松井 弥平

㊦

(表紙)

明治九年十一月十八日

訴訟入費償却之訴状

山梨県第三十四区

甲斐国都留郡

長浜村戸長

九年

支百廿六号

原告総代人

三浦 兵左門

〃 三浦

源一

〃 三浦

裕暉

訴訟入費償却之訴

一金二十円三十銭

本年二月十七日証

右証拠物写真之如
イ、六、千、五、百、七、十、一、号

訴訟入費取調書

今、村、様、ノ、御、検、印、
印

山梨県第三十四区

甲斐国都留郡

長浜村戸長

原告総代人

三浦 兵左エ門

〃

三浦 源一

〃

三浦 裕暉

同県同区同国同郡

大石村 九里

被告人 正副戸長

小前一同

都留郡五区

長浜村

本年一月十二日

同十三日

同十四日

同二十三日

同二十四日

同二十五日

同三十一日

二月四日

同五日

同十二日

同十四日

同十七日

ノ十二日 十二人

代金六円

代書人日当

一用紙百四十三枚

代書料

代金十四円三十銭

合金二十円三十銭

右之通原被代人立会取調候処長浜村訴訟入費書面之通相違無御座候以上

都留郡第五区

山梨裁判所
七等判事後藤広貞殿
前書之通相違無之候事
明治九年
二月十七日
山梨裁判所
御判

長浜村	原告代人	三浦兵左ヱ門	⑩
〃	〃	三浦源一	
〃	〃	三浦裕暉	
山梨郡柳町	代言人	松井源平	⑩
都留郡第五区	被告人	堀内宗作	⑩
大石村	〃	同利兵エ	⑩
山梨郡第一区	春日町	武川伊吉郎	⑩
〃	代言人		

右原告人惣代人一同奉申上候当村ヨリ被告大石村エ相掛リ候入会山一件屢々御審判之末本年二月十九日御裁決被仰渡被告大石村ノ答フル旨意不相立当同村ヨリ控訴ヲ成シ候処同五月中是迄山梨御裁判所ニ於テ御裁決ノ通可心得旨被仰渡候趣ニ而去ル八月中大石村総代堀内宗作義婦宅戸長役免職相願未タ諸役不想定尤副戸長ニオイテ一村事務關係承在依而者前願之旨趣同人共ヨリ請求セント屢々促候得共自分共許ヨリ關係セシ事ニ無之故敢而償却スル不能旨申之依而者堀内宗作へ掛合遂度候得共不承在孰レニ潜居候哉面会得ル不能左候連々打返候ハ、最早出訴期限ノ際ニ至リ定而右期限ヲ遅ラセン故意ニモ可有之義ニ而当惑仕候旨何卒被告人被召出□方濟方御裁判奉願候以上

明治九年十一月十八日

右

三浦 兵左エ門

三浦 源一

三浦 裕暉

桜町平民

松井 源平

静岡裁判所

甲府支庁長心得

田原三級判事補殿

如斯訴出ル条和解ニ不至候ハ、来ル二十七日午前第九時答書持参可致者也

明治九年十一月廿日

静岡裁判所

甲府支庁

都留郡

大石村

正副戸長

小前一同

右村

戸長

山梨県第三十四区

甲斐国都留郡

大石村

正副戸長

小前一同総代

被告人

同

訴訟入費償却之答

右同県同区長浜村三浦兵左エ門外二人訴訟入費償却之義訴出候ニ付去十一月廿七日御呼出シノ御状拝見仕御日

延奉願上置御答申上候

当村之義明治八年十二月中原告長浜村より相係候入会山指妨ノ儀御訴訟相成夫々御審判之上本年二月中御裁断被仰渡当村之儀者申分難相立□□ニ付右一件中訴訟入費者償却可仕者勿論ニ候得共御裁許状之趣旨不拔之廉有之上等裁判所ニ控訴仕候処右ハ先般山梨裁判所ニ於テ御裁許相成リ候文意ノ通り可相心得旨御下ケ御裁許被仰付候得共固ヨリ入会不仕長浜村ヲ唯御貢稗御割附状中大石村薪山税ト有之而已ニテ今更入会ノ儀御裁許面ニ有之候トモ薪之外秣ニ至ル迄苟取方可仕之詮無之且以來材木等迄モ檀ニ伐取候ル様成ル儀ヲ差勤候之外之次第ニテ不取捨置廉之不拔之始末大審院エ上告致シ当村御審問申之儀ニ付右訴訟入費者御同院ニテ何分ノ決断取仰渡候迄償却難相成候旨原告人ニ於テ其段相辨候様厚ク御説諭被成下置度此段以答書奉申上候ル
右之通りニ御座候

明治九年十二月二日

山梨県第一区

甲斐国山梨郡

春日町平民

代書人 武川 伴吉郎

前書之儀私共一同より御答可申上筈ニ御座候処多人数ニ而出頭相成兼候ニ付総代相頼ミ候答上候
申上候事柄並御受申上候事柄共後日ニ至リ私ニ其より異議申上間數候為後証奥印仕候也

山梨県第三十四区

甲斐国都留郡

大石村

明治九年十二月二日

百四十七号

道路修繕願

写

山梨県第廿三号甲斐国

八代郡上芦川村

平民

訴人 丸山 逸平

平民

〃 渡辺 仙蔵

右奉申上候王政御一新以来追々国能一事務ヲ被為整御改正之折柄国為筋者勿論村為筋ニ茂相成候様弁理ノ見込有之候ハ、無遠慮可申出旨御沙汰候ニ付難有御儀ニ一同承知罷存候処然ルニ上芦川村より同県第三十四区都留郡大石村地内へ相掛り新道修繕仕度一同示談行届尤モ駿州沼津小田原へ旧脇往還ニ御座候処猶又今般都留郡第三十三区谷村へ御勘解裁判被御立置同三十四区副地村へ出所御開キ付テハ是迄之甲府道路不弁理ニ付模様替致仕度然ル処都留郡大石村ニテハ地所貸渡ス而已ニテ第廿三区上芦川村ニテ同村地内者勿論第三十四区都留郡大石村分内近課出仕候儀ト協議行届模様替之義別紙図面之箇所御見分之上御聞届被成下度左之名前之もの一同以連ヲ奉願上候以上

右

明治十一年五月

盗難届

山梨県第三十四区

都留郡

長浜村

三浦 兵左エ門

三浦 広明

右ノ者共儀大石村山内字大法螺山秣場ニテ本月七日午後第五時頃何者萱盗刈候者私共村内ノ者（堀内利兵エヨ

丸山 逸平 印

渡辺 仙蔵 印

村総代

飯高 清右エ門 印

村総代

原 文作 印

村総代

原 半兵エ 印

戸長

飯高 重兵エ 印

リ) 事務所江届ケ出候ニ付協議ノ上私共三人総代ト而見届ニ参候処昨七日同様ニ萱盗刈取居候ニ付萱刈道具背負子及ヒ鎌取押ヘ右兩人長浜村事務所ヘ引連レ該戸長工相断置候間此段御届ケ申上候以上(其上同道可致様申聞候得共同道モ不致附テハ戸長ニ於テモ書付不差出依テ書面ヲ以此段御届ケ申上候以上)

明治十年

十一月八日

第三十四区 都留郡

大石村

村総代 堀内 利兵ヱ 印

同断 渡辺 与市 印

同断 堀内 宗作 印

右村担当

戸長 堀内治右ヱ門 印

山梨県令藤村紫朗殿

明治九年七月八日

証拠物写

山梨県下甲斐国

都留郡第五区大石村

戸長

堀内 宗作

平民

渡辺 与市

第一号

差上申済口証文之事

都留郡大石村役人並小前百姓百三十六人代兼名主宇右エ門外十人ヨリ同村与一之助外五人エ相掛リ御訴訟奉申上候ハ当村分内字久保井坂下ト申場所ニテ山畑三反六畝十歩此取稗八升六合如何之訳合ニテ当村御取箇外ニ有之候哉右畑稼ヲ以与一之助義近來右畑統村内入会秣場迄ニ切開キ□ヘ村方総百姓右場所ヘ柴秣薪取ニ羅越候処前々不來し道筋迄切潰シ當時畑形凡一町歩余有之其上右畑三反六畝十歩之場所八字久保井坂下ト申場所ニ限リ候処右場所之外字丸山ト申ヲ打越字大沢尻ト申村内入会場是又勝手儘切開候間指揮候処彼是申取引不仕候ニ付無執御訴訟申上候趣申之候

此段与一之助外六人御答奉申上候先年寛文九年御検地之御縄受甚左エ門子孫与一之助同人分家甚左エ門与惣治御縄受甚左エ門弟七郎右エ門子孫甚右エ門同人分家与市七左エ門銀之助奉申上候私共先祖渡辺越前守ト申者武田家ヘ御奉公相勤メ御書付等頂戴仕罷在候ニ付谷村御城主様方御代ニ御役被仰付御書付頂戴仕候ニ付先年寛文九年御検地之節居屋敷並当村分内字久保井坂下ニテ山畑三反六畝十歩之内同所西ノ方私共先祖甚左エ門預五竈合二反二畝十歩同所東ノ方七郎右エ門預四竈合一反三畝廿四歩御除地ニ被成下置代ニ進退罷在候処村方之者共一同申合字久保井西ノ方二反二畝十六歩之場所村方入会秣場ト申立候私共御除地久保井坂下東ノ方七郎右エ門

御預所へ押付候心底ニテ同所西ノ方甚左エ門御預所大沢尻ト申村内入会場ヲ勝手儘ニ切開候段総代之者共改取
ニテ村方小前百姓相勤メ右体無筋之出入□掛ケ畑形之分ハ勿論秣場分共御除地内ニテ往古ヨリ私共進退致来候
処村内へ奪取候心底何共難得其意段其外品々御答奉申上候
右之通り双方ヨリ奉申上當時御吟味ニ御座候処御吟味奉受候テハ不宜義ニ取扱人立入双方へ意見差加へ内済仕
候趣意左ニ奉申上候

右出入り双方へ及掛合等ト取調候処字久保井坂下大沢寺崎之方長浜村境迄論所之義作付有之分ハ相手方七人之
所持ニ取極メ其外総山立木秣場共々持ニ致勿論右場所絵図面今般訴答並扱人立会等ト取調絵図面訴答ニテ所持
致且除地御水帳之義所持之有無扱人ヨリ訴訟方へ及掛合然ル処立木伐取之義後年往々村中一同相談之上取計可
申筈且又右論所畑肥柴秣共刳取之節ハ双方実意ヲ以指支相成候様取計申候筈前書之通り双方無申分悉ク融和内
済仕候間御吟味是迄ニテ御免被成下間済被仰付候様奉願上候
右願之通り御間済被成下置候ハ、難有仕合ニ奉致候然ル上ハ右一件ニ付重テ御預ケ間敷義□テ申上間敷候依之
双方並扱人一同連印ヲ以済口証文奉差上候以上

都留郡大石村

百姓百三十六人総代

右エ門事

名主

喜十郎

㊦

小前総代

組頭

文政八年西四月

〃 〃	太右エ門 ⑩	〃 〃	孫助 ⑩	〃 〃	勇右エ門 ⑩	〃 〃	弥市 ⑩	〃 〃	清右エ門 ⑩	〃 〃	助次郎 ⑩	〃 〃	文右エ門 ⑩	百姓	訴訟方	藤吉 ⑩	百姓代	普右エ門 ⑩
--------	-----------	--------	---------	--------	-----------	--------	---------	--------	-----------	--------	----------	--------	-----------	----	-----	---------	-----	-----------

与惣治	〃	七郎右エ門	銀之助事	〃	七右エ門	〃	甚右エ門	〃	多仲	甚右エ門事	〃	与市	〃	与一之助	百姓	返答方	同郡同村	藤兵エ
印		印			印		印		印			印		印				印

同郡川口村

浅間神社

扱人 宮下 播摩 ⑩

同郡同村

同所 太助 ⑩

同郡長浜村

神主

同所 三浦民部 ⑩

同郡境村

年寄

扱人 五右エ門 ⑩

古川 栄右エ門様

御役所

第二号 文化六年

甲斐国都留郡大石村字反別村差出帳

寛文九酉年秋元但馬守様

御検地御水帳 三冊

高百九十九石六斗三升一合 大石村

此反別三十三町四反一畝十一歩

当村山内へ他村ヨリ入会一切無御座候

以下之ヲ略ス

第三号 天明四年

甲斐国都留郡大石村高反別村差出帳

辰ノ七月

寛文九酉年秋元但馬守様

御檢地御水帳 三冊

高百九十九石六斗三升一合 大石村

此反別三十三町四反一畝十一歩

当村山内へ他村ヨリ入会一切無御座候

以下之ヲ略ス

第四号 天明八年

甲斐国都留郡大石村高反別村差出帳

申ノ五月

寛文九酉年秋元但馬守様

御検地御水帳 三冊

高百九十九石六斗三升一合 大石村

此反別三十三町四反一畝十一歩

当村山内へ他村ヨリ入会一切無御座候

以下之ヲ略ス

第五号 明和八年

甲斐国都留郡大石村高反別村差出帳

卯正月

寛文九酉年秋元但馬守様

御検地御水帳

高百九十九石六斗三升一合 大石村

此反別三十三町四反一畝十一歩

当村山内へ他村ヨリ入会一切無御座候

以下之ヲ略ス

第六号 天保九年

甲斐国都留郡大石村明細差出帳

戌ノ二月

寛文九酉年秋元但馬守様

御檢地御水帳 三冊

西村貞太郎様御代官所

高百九十九石六斗三升一合 甲州都留郡

此反別三十三町四反一畝十一歩 大石村

当村秣薪萱木ハ当村山ニテ取来リ申候他村ヨリ当村へ入会村無御座候

以下之ヲ略ス

第七号

差出申小作畑預リ証文之事

一貴公方御持久保井山畑小作年貢金三分ニテ来ル辰年ヨリ子暮迄九年拙者共小作仕筈御預リ申候小作年貢日限之義ハ毎年十月十五日限りニ急度相納可申候且又久保井添山之内ニテ夜荷木ニいけ木其外何ニテモ持運ビ無作法成義仕間敷候但桑之本証大切ニ仕少々宛毎年植ふやし可申し候総テ大石村分ニテ何ニテモ悪キ事仕間敷候右小作年貢間違申候テ無作法仕候ハ、年季之内ニテモ畑御取上ケ之上少茂御難掛ケ申間敷候為後日仍テ証文如件

長浜村

小作人

宝曆九年

小左エ門 印

卯ノ十一月

同所

与右エ門 印

大石村

第八号

指出申証文之事

一貴公方御持久保井小作仕シ付当六月無調法仕候処御立腹之処御尤至極ニ奉致候依之当村丈右エ門殿御頼申段
ニ御託仕以来久保井ヨリ夜荷等殊ニ森木枝葉等一切持運申間敷候就中野火毛付申間敷候為後日証文指出申所仍
テ如件

長浜村

世話人 彦右エ門 印

同所 市左エ門 印

当人 件左エ門 印

同所 久左エ門 印

世話人 丈右エ門 印

大石村

渡辺 将監殿

同 与一之助殿

甚兵エ殿
将 監殿

第九号

先年少将様御檢地之割御請納方ノ内日損之免被遣候間早々無油断作毛專一候仍テ為後日状如件

天正十九

卯月十四日

西田 幸丞 印
森村 源内 印

大石村

名主百姓中参

第十号 前文紙毀損不相知候

右之通り申付候間々中庄屋百姓寄合当宅付ヲ以高下勘定無相違割付来極月十五日以前急度皆済可仕者也

寛文六年酉午十一月十五日

安五郎兵 印
高甚五兵
高五兵 印
高文左 印
大石村
庄屋百姓中

第十一号

当酉秋作早損ニ付引方之事

有高百九十五石三斗三升一合

一畑高百七十五石一斗七升二合四文

当秋作違ノ検見高

取米八十五石八斗三升四合八勺 取

四ツ九分

内

一高十五石六升二反 検見有 八分

此高十石一斗八升六合九勺 居屋敷

取米九斗九升二合四勺 取六分五厘九毛

一高六石二斗四升五合四勺 検見有毛七分

此高一石一斗四升六合五勺 屋敷作場

取米四斗九升八合四勺 取七分九厘八毛

一高八石六斗二升九合六勺 検見有毛六分

内高一石八斗三升七合四勺 屋敷作場

引米八斗三升一合九勺 取九分六厘四毛

一高廿一石四斗六升六合二反 検見有毛五分

内四石八合七勺 屋敷作場

大石村

引米二石五斗三合 取一ツ一分六厘六毛

一高三十五石一斗九升五合六勺 検見有毛四分

内三石一斗四升一合八勺 屋敷作場

引米四石九斗六升六合一勺 取一ツ四分一厘一毛

一高四十三石九年二升一合三勺 検見有毛三分

内二石六斗七升四勺 屋敷作場

引米七石四斗九升七合三勺 取一ツ七分七毛

一高三十石五斗四升六勺 検見有毛二分

内六斗八升八合六勺 屋敷作場

引米六石三斗六合六勺 取一ツ六厘五毛

一高十一石八斗八升三合七勺 検見有毛一分

内一斗三升八合四勺 屋敷作場

引米二石九斗七升九勺 取二ツ五分

一高二石二斗二升九合八勺 皆引

引米一石九升二合六勺 取四ツ五分

引米ノ二十七石六斗五升九合二勺

右当年早損ニ付検見被仰付御見分御細分付之通明細村中御百姓立会割取被申難有奉致相殘御納所無未進皆済可
被申候仍如件

元禄六 元年
酉 年

三木五郎右エ門

印

十一月二十五日

星野五左門

㊦

大石村庄屋

角左門殿

右写之通相違無御座候 以上

右

明治九年七月八日

堀内 宗作

㊦

渡辺 与市

㊦

大審院

御中

大審院判決（大審院民事判決録明治十年七月至同十年十二月）

第七十号

○山論上告ノ判文

明治九年七月九日上告

明治十年九月十九日申渡

山梨県下甲斐国第三十四区都留郡大石村総代

同村戸長

原告

堀内 宗作

同村平民

原告

渡辺 与市

山梨県下甲斐国第三十四区都留郡長浜村平民
旧戸長

被告総代

三浦裕暉代兼

被告

三浦 源一

同村平民戸長

被告総代

三浦兵左衛門代

被告

三浦 広明

東京上等裁判所ノ審判

原告総代 堀内宗作外一人控訴ノ要旨

明治九年四月二十四日

第一条

初審ノ裁判状ニ大石村薪貢納従前ヨリ納来リシ上ハ長浜村ヨリ立入伐採スルハ当然ナル旨記載アレトモ被告
長浜村ニ於テ右山薪年貢大豆二斗五升納メ来リシトノコトハ此迄更ニ承知セサリシ然ルニ初審裁判所ニ於テ

ハ当大石村持ノ山年貢ヲ長浜村ヨリ納メタルハ何等ノ故ナルヤ其原由モ不取糺裁判ニ成リタルハ不服ナリ

第二条

同裁判状ニ文政度済口証文中総山立木郷持トアルハ村持ト云フ一般ノ旧習ナル旨申立ルト雖モ郷ト村トハ自カラ殊別ノモノニシテ郷持トアルヲ以テ大石村一村持トハ看做シ難シトアレトモ村ヲ郷ト唱ヘタルハ旧習ニシテ既ニ旧領主ヨリ書下ケニ成タル数度ノ書類ニモ大石村一村ヲ指シ郷ト唱ヘシモノ有之故ニ文政度済口証文郷持トアル郷ハ村ノ誤字ナリ且該証文ハ大石村ノモノ共ニテ爭論セシ時ノ済口ニシテ他村ノモノ關係無之然ルニ斯ク裁判セラレタリ

第三条

同裁判状ニ天明度差出明細帳写シ文中他村ヨリ入会一切無之トアルモ果シテ其正本ヲ旧代官所ヘ差出シタルヤ否今之ヲ知ルニ由ナシトアレトモ右明細帳ハ天明度ヨリ天保度ニ至ル迄支配代リノ都度書上ケ置タルヲ嚴密其取調モナク唯山梨県ニテ搜索及フト雖モ不見当云々ヲ以テ裁判セラレタリ

第四条

同裁判状ニ宝暦度小作証文安永度ノ証文等ハ印形引合スヘキ書類無之真偽ヲ訂ムルヲ得ストアレトモ旧幕府代官支配ノ節ハ年々夫錢取立帳総人民連名ニ差出シ置シモノニ付此夫錢帳歟又ハ旧宗門帳ヘ引合セハ睨ト相分ルヘク依テ此等ノ取調アリタシ

第五条

同裁判状ニ原告長浜村ニテ積年薪山税納来ル上ハ被告大石村ニ於テ入会ヲ故障スル条理ハ無之トアレトモ長浜村ニ於テ該山年貢ヲ納ムル上ハ同村ノ水帳ニモ記載可有之如何トナレハ其税ハ雑税ニ非スシテ貢納ナレハナリ然ルニ初審ニ於テハ訝カシキ皆済目錄ノミヲ用テ水帳ノ取調ハセサリシ尤右薪山古来高反別モナク検地

帳ニモ記載アラサレトモ旧幕府代官交代ノ都度他村ヨリ入会ナキ旨ヲ記載シ差出シ置タル明細帳アリ且論所ニ之アル天神山神ノ各祠ハ大石村ノ水帳並ニ明細帳ニ記載有之山内ニ厄難等有之節ハ大石村ニテ其義務ヲ担任シ長浜村ニ於テハ曾テ關係セス若シ薪山年貢ヲ納ムルヲ以テ入会ノ權利アリトセハ各祠ノ義務モ共ニ担任スヘキ筈ナラスヤ然ルニ其關係セサルハ則チ入会ノ權利ヲ有セサル一証ナリ其他別ニ薪山専有ノ証書類ハ無之ナリ

第六条

同裁判状ニ實際上ニ於テモ亦入会タル儀ナキヤ否ハ申争ノミニシテ被告ヨリ申立ル件々ハ総テ採用シ難トアレトモ被告長浜村三浦三右衛門ナルモノハ寛文度以來ノ名主役ニテ其實際ヲ詳知セルモノニ付初審ノ訴状ニモ同人ハ連署セサルナリ故ニ同人ヲ喚問アリテ尚実地見分アラハ被告長浜村ニ於テ該薪山ニ入会セサル儀ハ判然ナリ

第七条

被告長浜村ヨリ山梨県庁ヘ伺ノ上該薪山ヘ入会可致旨指令アリタル儀ハ明治八年二月両村合併協議ノ節初テ承知セリ依テ原告大石村ニ於テハ入会ニ無之趣ヲ以テ山梨県庁ヘ再応伺出シヨリ明治八年八月二至リ区長ヲ以テ取扱方被申付タレトモ遂ニ其取扱ハ行届カサリシナリ
右ノ通りニ付該薪山ハ従前ノ通り原告大石村一村限り進退センコトヲ欲スト

山梨県ヨリ東京上等裁判所ヘ回答ノ書面〔節録〕

長浜村ニ於テ従前大石村薪山年貢上納仕来タル原由ハ何等ノ由縁ヲ以何年ノ頃ヨリ長浜村ニ於テ上納仕来候哉其原由ノ旧記ハ無之候得共旧幕府代官ヨリ引渡有之長浜村年貢割付帳ニ大豆二斗五升大石村薪山年貢ト有之右帳簿ハ代官所於テ増減ノ分年々張掛紙ヲ以計算致シ清書ノ上村方ヘ下渡候元帳ニテ明治四未年迄

相用候帳簿ニ有之候間従前大石村薪山年貢ノ名称ヲ以上納候義ハ相違無之候也 明治九年四月二十九日

判文

該訴ハ明治七年五月中被告長浜村ニ於テ原告大石村地内ノ薪山年貢上納仕來ルヲ以テ山梨県庁へ出願ノ上秣薪刈取ル為メ入会可致旨ノ指令ヲ請シ趣ニテ明治八年二月ニ至リ初メテ長浜村ヨリ大石村へ薪山入会ノ名義ヲ地券下調帳簿ニ記載致度旨談判有之ヨリ差違尚隣区々長等ノ取扱ヲ受シモ示談不行届遂ニ山梨県庁ノ差圖ヲ受度原告双方ヨリ出庁シタルニ原告大石村ハ一切取調無之追テ何分ノ沙汰可有之旨ニ付帰村致ス処明治八年十二月十八日該被告長浜村ヨリ山梨裁判所へ忽然出訴ニ及ヒ原告大石村ニ於テモ種々答弁ノ末明治九年二月十九日裁判ヲ受タリ右裁判言渡書ニ該被告長濱村ニ於テモ山税貢納致スヲ以テ入会タルヘシトアレトモ不服ニ付文政八年酉四月済口証文並ニ天明度以來村方ヨリ旧代官所へ数度差出シタル明細帳ノ写又宝曆九年卯十一月付長浜村小左衛門外一人ヨリ取置ク小作証文並ニ安永六年酉九月付長浜村彦右衛門外四人ヨリ取置ク証文類ヲ以テ憑拠トシ被告長浜村ヨリ是迄薪秣等入会伐取シタル事一切無之故今更地券下調帳簿ニ長浜村入会ノ名義ハ記載シ難ク従前ノ通大石村限り進退致シ度旨縷々陳述スト雖モ右ハ被告ニ對シ其効力ヲ有セサルノミナラス該薪山ハ固ヨリ大石村檢地水帳等ニ記載モナケレハ高反別モ無之唯薪秣ヲ伐取ル為メ若干ノ税納セシヲ以テ大石村限り専有ノ權アリトハ見做シ難シ依テ被告長浜村ヨリモ已ニ税納仕來ル上ハ共ニ入会薪秣ヲ伐取ルモ当然ナリ而シテ又長浜村ヨリ税納ノ証ハ明治二巳年以來同村ノ皆済目録ニ大豆二斗五升薪山年貢トアル肩書ニ大石村ト有之ト雖モ其原由詳カナラサルヲ以信用シ難キ旨原告申立ルニ付山梨県庁へ照會シ該論所租税取立振ヲモ取調ニ及フ処旧幕府代官ヨリ引繼タル長浜村年貢割付帳ニ大豆二斗五升大石村薪山年貢ト判然記載有之右帳簿ハ旧代官所於テ年貢割付増減ノ分年々掛紙ヲ以テ計算致シ清書ノ上村方へ下付セシ元治甲子年以來ノ元帳ナレハ従前長浜村ヨリ大石村薪山年貢上納仕來ル事相違無之依テ原告申分難相立訴狀

却下候事 明治九年五月十九日

大審院ニ於テ

原告総代 堀内宗作外一人上告ノ要旨

第一条

上告狀第一条ヨリ第六條迄ニ陳述シタル要旨ハ被告長浜村ニテ原告大石村持山ヘ入会セサルハ各書類ニテ判然ナルヲ山梨裁判所ハ長浜村ヨリ納メシ貢税ノ原由宝曆度ノ小作証文等篤ト調査セス又文政度ノ濟口証文ニアル郷字ノ弁解ヲ採用ナカリシコトヲ挙ケシモノニテ此等ハ乃チ初審ノ裁判ニ不服ナル条件ナリ然レトモ弁明アランコトヲ乞フ

第二条

東京上等裁判所ノ判文ニ論所薪山ハ固ヨリ大石村檢地水帳等ニ記載ナク高反別モナケレハ唯薪秣ヲ伐取ル為メ若干ノ税納セシヲ以テ大石村限り専有ノ權アリトハ見做シ難ク依テ被告長浜村ヨリモ已ニ税納仕來ル上ハ共ニ入会薪秣ヲ伐取ルモ当然ナリトアレトモ雜税ヲ出ス一村持山ノ高反別ヲ水帳ニ記載シタル村ハ郡中一村モ無之現ニ長浜村一村限りノ持山トモ亦然リ故ニ論所薪山ノ高反別ヲ檢地水帳ニ記載セサルカ如キハ大石村ニ限ラス当都留郡一般ノ仕來ナリ殊ニ大石村ハ一村持山ノ境界判然相立薪税燭松税青草税ヲモ納メ來ル一村持切ノ薪山ナリ是レ該裁判ヲ不法トシ破毀ヲ求ムル所以ナリ

第三条

東京上等裁判所ノ判文ニ山梨県庁ヘ照會シ該論所租税取立振ヲモ取調ニ及フ処旧幕府代官ヨリ引継タル長浜村年貢割付帳ニ大豆二斗五升大石村薪山年貢ト判然記載有之右帳簿ハ旧代官所ニ於テ年貢割付増減ノ分年々掛紙ヲ以テ計算致シ清書ノ上村方ヘ下付セシ元治元甲子年以來ノ元帳ナレハ従前長浜村ヨリ大石村薪山年貢

上納仕來事相違無之依テ原告申分難相立トアレトモ其貢納ハ仮令元治元年ノ元帳ナルモ地元大石村ニ於テ承諾セサルニ付不正ノ貢納ト云ヘシ故ニ該裁判ヲ不法ナリト思考ス

第四條

又大石村薪山年貢トアレハ雜稅ニ非スシテ正租ナルヘシ且正租ヲ出スニハ反別請所ナカルヘカラス然ルニ被告長浜村ニ於テハ該薪山ノ反別ナク請所モナシ是亦其貢納ヲ不正ト思考スル所以ナリ

第五條

凡ソ他村ヲシテ自村ノ山ヘ入会セシムルニ境界ナクシテ其入会ヲ許サル、ノ規則アルヲ聞カス且入会山ハ必ス境界ナカルヘカラス若シ入会山ニシテ境界ナクンハ一方ヨリ不相當ニ入会セラル、モ故障ナスコトヲ得ヘカラサル乎既ニ長浜村ハ薪山年貢ヲ上納スルモ其入会ノ境界ナシ故ニ山梨裁判所ノ裁判ニ大石村ニ於テ入会ヲ故障スル條理ナシト申渡サレシヲ不服トシ東京上等裁判所ヘ控訴シタルニ之ヲ採用ナク裁判セラレシハ情實ニ適セサル裁判ナリ

第六條

論所ハ實際上ニ於テ入会タルヤ否ヤハ引合人三浦三右衛門ヘ審問シ且實地ヲ検査アラハ明白ナルヘキ旨東京上等裁判所ヘ陳述シタルニ之ヲ採用セス加之薪山年貢上納ノ原因取調ナクシテ皆済目錄ノミヲ以テ裁判申渡サレタルハ不法ナリ

第七條

被告長浜村ニ於テ証拠トスル皆済目錄ニ薪山年貢トアリテ薪秣ノ年貢トハ記載アラス且雜稅ニハ各殊別アリテ薪ハ薪稅トシ草ハ青草稅ト其名称ヲ異ニスルハ皆済目錄ニ判然タリ然ルニ山梨裁判所ト東京上等裁判所トハ右薪年貢トアルヲ以テ薪及ヒ秣迄刈取ルヘシトノ裁判ハ不法ナリ

第八条

明治八年二月中太政官公布第二十三号ニ從來雜税ト称スルハ旧慣ニ因リ区々ノ収税ニテ輕重有無不平均ニ付別紙税目本年ヨリ相応シ云々トアルニ基キ本訴ノ入会モ今般地租改正ノ際実地検査ノ上原被両村ノ有無ヲ通シ双方薪秣等差支無之様処分アラハ原告大石村ニ於テハ苦情アラサル也尤此条ハ初審及終審ニ対シタルモノニハ無之ナリ

被告 三浦裕暉代兼三浦源一外一人答弁ノ要旨

第一条

原告大石村山ニ対シ被告長浜村ニ於テ貢租ヲ納メ入会セシ如キハ他村ニモ類例アリ又原告証左トスル天明度ノ明細差出帳ナルモノハ一村限り私製ニ成リシモノニ付他村ヘ対スル証拠ニハ成リ難カルヘシ

第二条

凡土地ヲ専有スルト共有スルトハ独リ其貢租ヲ納ムルト共ニ納ムルトニヨリテ區別アルモノナル故仮令該薪山ノ地ハ原告大石村ニ在ルモ被告長浜村ニ於テ其貢租ヲ納メシ上ハ特リ大石村ノミ所有スルノ理アラサルヘシ尤該地ノ地券ヲ大石村ニ於テ領受セシハ山梨県ヨリ指令ノ通り被告ニ於テモ異議アラサルナリ

第三条

該薪山ニ対シ長浜村ニテ納メシ貢租ハ不正ナル旨原告申立レトモ該貢租ハ元治以降ノ元帳ニ判然ナル趣山梨県庁ヨリ東京上等待判所ヘ回答セラレシモノニテ明瞭ナル故何ソ之ヲ不正ノ貢納ト云フ得ン且地租ヲ納ムルニハ必ス現地ナカルヘカラス既ニ薪山ノ現地アリ而シテ之カ租ヲ出ス然ラハ則チ長浜村ニ於テモ其地ヲ有スヘキハ亦当然ナラスヤ

第四条

該薪山ニ於テ境界ヲ立テス唯入会セシムルトノ裁判ハ情實ニ適セサル旨原告申立レトモ原告村方ニモ私有ノ山林有之上ハ其境界ハ既ニ判然定メアルナリ

第五条

該爭論タルヤ入会有無ニアリテ入会境界ニアラス故ニ原告申立ノ如ク實地検査アラサルモ其入会ノ有無ハ証拠ニ照シ明ニ区分スルヲ得ヘキナリ

第六条

薪山トハ地名ニ非スシテ薪伐取ル為メノ名称ナリト雖モ長浜村皆済目録地租ノ部ニ大石村薪山年貢ト明記アリ故ニ該薪山ニ生スル薪及ヒ秣共刈取ルノ權利アルヘシ如何トナレハ秣ハ薪ニ從フヘキモノニシテ且其年貢ハ雜稅ニ非ス正租ナレハナリ尤薪山入会ノ証書ハ右皆済目録ト山梨県指令トノミニテ他ニ書類ハ無之ナリ

第七条

原告大石村ニ於テ明治八年第二十三号公布ヲ引証シ甲乙有無ヲ通シ度云々陳述スレトモハ右ハ自己ノ苦情ヲ訴フルモノト思考ス

弁明

第一条

上告要旨第一条ハ初審ノ裁判ニ不服ノ条件ナル旨申立ル上ハ之レカ弁明ヲ与ヘス何トナレハ本院ハ終審ノ裁判ニ付テノ上告ヲ受タルノ所ニシテ初審ノ裁判ニ付テノ上告ヲ受ルノ所ニ非サルカ故ナリ

第二条

上告要旨第二条ニ薪山高段別ヲ検地水帳ニ記載セサルハ都留郡一般ノ仕來ナルヲ東京上等裁判所ニ於テハ薪

山ハ大石村ノ検地水帳ニ記載ナク高段別モナケレハ云々言渡シタルヲ不法ト申立ルト雖モ一般ノ仕来リトノミニテ其証ヲ挙ケサル以上ハ固ヨリ採用スヘキ筋ニ非ストス

第三条

上告要旨第三条ニ被告長浜村ノ納ムル薪山年貢ハ地元大石村ノ承諾セサル不正ノ貢納ナリト申立ルト雖モ長浜村ニ於テハ管轄庁ノ割付面ニ従ヒ貢納シ来ル皆済目録ノ証アル上ハ仮令大石村ニ於テ之レヲ知ラスト云トモ不正ノ貢納トナスヲ得ス

第四条

上告要旨第四条ニ薪山年貢トアレハ雑税ニ非スシテ正租ナルヘク且正税ヲ出スニハ反別受所ナカル可ラサル旨申立ルト雖モ年貢トハ年々人民ヨリ官府ニ対シ貢納スルノ総称ニシテ正租ト云ヒ雑税ト云モ古来皆年貢ト唱ヘ来レリ其年貢ヲ納ムルニハ土地ヲ所有スルニ因リテ貢納スルモノアリ他人ノ質地ヲ受取ルニ因リテ貢納スルモノアリ他人ノ土地ヨリ生スル利益ヲ得ルニ因リテ貢納スルモノアリ被告長浜村ノ納ムル年貢ハ地元大石村ノ山内ニ生スル薪ヲ長浜村ニ於テ之ヲ採リ用ユルニ因リテ納ムルノ年貢ニシテ之レヲ受所ナシト云ヘカラス又不正ノ貢納ニ非サル理由ハ第三条ニ弁明セシカ如クナリトス

第五条

上告要旨第五条ニ他村ノ山ヘ入会ヲ許サル、ニハ必ス経界ナカルヘカラサル旨申立ルト雖モ凡ソ入会ニハ全部ノ入会又ハ幾部分ノ入会アリ其全部ノ入会ニ至テハ固ヨリ区画アルヘカラス故ニ他ノ山内ニ入会ヲナスニハ必ス経界ナカルヘカラスト云コトヲ得ス

第六条

上告要旨第六条東京上等裁判所ニ於テ三浦三右衛門ヲ引合人トシテ呼出サレンコトヲ乞タルニ採用ナカリシ

旨申立ルニ因リ之ヲ控訴狀ニ徴スルニ控訴狀ニハ三右衛門ハ古來ヨリ代々名主役ヲ相勤メ實際入会ニ非サルヲ知レルカ故ニ先般長浜村ヨリ山梨裁判所へ出訴ノ節モ三右衛門ニ於テハ連署セス唯皆済目録ニ大石村ノ名義アルヲ以テ当今ノ村吏一村ヲ煽動セシ事情ハ三右衛門取調アラハ判然スヘシト記載セシ而已ナリ夫レ原告大石村ニ於テ當時証拠ヲ出シテ其証拠ノコトニ付三右衛門ノ呼出ヲ求メシコトナレハ呼出スヘキコトナレトモ唯三右衛門ヲ呼出スコトノミニテハ口上ノミノ証ヲ取ルコトユヘニ仮令ヒ三右衛門ヲ呼出シタリトモ三右衛門ノ口上ノミニテハ皆済目録ニ記載シアル山年貢ノ証ヲ取消スコトヲ得サルニ依リ東京上等裁判所ニ於テ三右衛門ヲ呼出ス迄モナク控訴狀ヲ却下セシハ不法ノ処分ニ非ストス

又薪年貢上納ノ原因取調ヲモナサシテ云々ト申立レトモ東京上等裁判所ヨリ山梨県庁へ照会ノ上旧代官所已來ノ振合ヲモ取調ヘシ旨判文ニ掲ケタル上ハ年貢上納ノ原因取調ナカリシト云コトヲ得ス

第七条

上告要旨第七条ニ被告長浜村カ証拠トスル皆済目録ニハ薪年貢トアリテ薪秣ノ年貢トハ記載セサルニ薪秣ヲ伐取ルヘシトノ裁判ハ不法ナリト申立ルニ依リ之ヲ長浜村ノ答弁書ニ照スニ薪山トハ地名ニ非スシテ薪ヲ伐取ル為メノ名称トアリ又タ之ヲ皆済目録ニ照スニ大豆ニ斗五升大石村薪山年貢ト記載アリ左スレハ長浜村カ上納セシ年貢ハ薪ノ年貢ノミニシテ秣ノ年貢ヲ納メシ証ト為スコトヲ得ス然ルヲ東京上等裁判所カ長浜村モ入会薪秣ヲ伐取ルモ当然ナリト裁判セシハ不条理ノ裁判ナリトス

第八条

上告要旨第八条ハ初審及ヒ終審ノ裁判ニ対シタルモノニ無之旨申立ルニ付本院ニ於テハ之レカ弁明ヲ与ヘス其理由ハ第一条二同シ

判決

前条々ノ如クナルヲ以テ東京上
等裁判所ノ宣告中長濱村ヨリモ
已ニ納税仕来ル上ハ共ニ入会
薪秣ヲ伐取ルモ当然ナリト云
ヘル部分ヲ破毀シ本院ニ於テ
裁判スルコト左ノ如シ
長濱村ヨリモ薪山年貢ヲ上納シ
来ル上ハ長濱村ハ大石村ト共
ニ薪山ニ入会ヒ薪ヲ伐取ルハ
当然ナリトス